

ちゅうせいししょうかくさんらんほう

中性子小角散乱法

■ 用語解説 ■

中性子を試料に照射し、散乱された中性子の波の干渉現象を観察することにより、その物質の内部構造や原子・分子の結合状態などを調べる方法。X線小角散乱法は原子内部の電子による散乱を利用した技術で、原子番号の大きな原子ほど感度が良い。これに対して、中性子小角散乱法は原子核による散乱を利用した技術で、原子番号の小さな水素、ヘリウム、リチウムなどの原子の分布を調べることができる。